

単元指導計画（案）

学習名 (教科名)	総合的な学習の時間 (進路学習)	学部	中	部	学年	2			年
教育課程	Ⅱ	指導時期	9～12月	月	指導コマ数	10			コマ
単元・ 題材名	進路について考えよう	学習指導要領との 関連	教科名			科		段階	
			内容						
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ									
きめる力	見る聞く感じる力	伝える力	つながる力			やる気元気			

●単元のねらい及び評価規準

単元（題材）のねらい	
観点 \ 段階	
知識及び技能	・ 教師の話を聞いて、どのような選択肢があるのかがわかる。 ・ 実際に進路先を訪問し、どのような学校なのか知る。
思考力, 判断力, 表現力	・ 自分自身のことについて（長所や、苦手なことなど）を考える。 ・ 目指したい姿について考える。 ・ 進路先で質問したいことを考え、まとめる。 ・ 進路先の訪問を終え、今後の進路希望を考える。
学びに向かう力, 人間性等	・ 進路選択を自分のこととして考え、自分の進路をより良いものにしようとする。
単元（題材）の評価規準	
観点 \ 段階	
知識・技能	・ 教師の話を聞いて、どのような選択肢があるのかがわかっている。 ・ 実際に進路先を訪問し、どのような学校なのか知る。
思考・判断・表現	・ 自分自身のことについて（長所や、苦手なことなど）を考えている。 ・ 目指したい姿について考えている。 ・ 進路先で質問したいことを考え、まとめる。 ・ 進路先の訪問を終え、今後の進路希望を考えている。
主体的に学習に取り組む態度	・ 進路選択を自分のこととして考え、自分の進路をより良いものにしようとしている。

●単元の構成及び評価の計画

○：指導の重点及び評価の観点

日 時	おもな指導内容	知	思	主
9月～	○自分のことについて考えよう ・ 自分自身のことについて（長所や、苦手なことなど）を考える。 ・ 目指したい姿について考える。 ・ どのような進路先があるのか知る。		○	○

10月31日(木) 10:40～11:20	○質問を考えよう① ・進路先への質問を考える。	○	○	○
11月7日(木) 10:40～11:20	○質問を考えよう② ・進路先への質問を考える。	○	○	○
11月14日(木) 13:40～14:20	○進路先を訪問しよう ・学校や寄宿舎のことについて、説明を聞く。 ・校内や寄宿舎を見学し、先輩達の学習の様子や校内、寄宿舎の様子を知る。 ・考えてきたことを質問する。	○	○	○
11月21日(木) 10:40～11:20	○今後の進路について考えよう ・進路先の訪問を終えて、感じたことや考えたことを教師といっしょにまとめる。 ・今後の進路について今の考えをまとめる。	○	○	○

●授業評価

<授業作りの5つの視点>

◎良い ○おおむね良い △指導改善を要する

授業評価 の視点	内容		評価	課題と改善策
物理的 環境支援	・パワーポイントや動画などの視覚教材を用いる。 ・使用しやすい机などを使用する。		◎	
補助的 手段	・難しい言葉や内容を、生徒が理解できる言葉に置き換えて伝える。 ・視覚的に理解できるよう、紙に絵や文字で書き出しながら説明する。		◎	
人的支援	・支援者と対話できる体制を整える。		◎	
学習機会	・生徒が集中できるように学習環境の配慮をする。 ・複数回学習の機会を設定し、定着や深化を図る。		◎	
多様な 評価	・振り返りの学習を行う。 ・生徒本人の評価、保護者の評価、教師の評価など、多方面からの評価を取り入れる。		○	
次年度に向けて	単元・題材	よい ・ 変更が必要	時数	よい ・ 変更→ ()

令和6年度 中学部「進路学習」学習指導略案

単元名	「進路について考えよう」		
日 時	10月31日(木) 10:40~11:20 11月 7日(木) 10:40~11:20	場所	中2C教室
ねらい	・進路先を訪問することを知り、見通しをもつことができる。 ・進路先への質問を考えることができる。		
対象生徒	2年：SH	指導者	齊藤百
時間	□学習内容 ・生徒の活動	教師の活動・指導上の留意点	
10:40	1. 始業あいさつ 本時の学習内容を確認する ・あいさつする。 ・本時の学習内容について知る。 ⇒「進路先を訪問することを知る。」 「進路先への質問を考える。」	◎あいさつを促す。 ◎本時の学習内容を説明する。	PC ワークシート マジック など
10:45	2. 「進路先について知ろう、質問を考えよう」 ・進路先について、どのような選択肢があるか知る。 ・日程や時間を知り、見通しをもつ。 ・進路先への質問を考え、紙に書く。	◎PPを使いながら説明する。 ◎生徒が主体的に考えられるよう、生徒と対話しながら、考えを引き出すようにする。	
11:20	3. 次時の確認、あいさつ ・本時の振り返りをする。 ・あいさつをする。	◎対話しながら、良かった点をなど生徒と一っしょに振り返る。 ◎あいさつを促す。	

令和6年度 中学部「進路学習」学習指導略案

単元名	「進路について考えよう」		
日 時	11月21日（木）10:40～11:20	場所	中2C教室
ねらい	・進路先の訪問を終えて、感じたことや考えたことを教師といっしょにまとめることができる。 ・今後の進路について今の考えをまとめることができる。		
対象生徒	2年：SH	指導者	齊藤百
時間	□学習内容 ・生徒の活動	教師の活動・指導上の留意点	
10:40	1. 始業あいさつ 本時の学習内容を確認する ・あいさつする。 ・本時の学習内容について知る。 ⇒「進路先の訪問を終えて、感じたことや考えたことを教師といっしょにまとめる。」 ・「今後の進路について今の考えをまとめる。」	◎あいさつを促す。 ◎本時の学習内容を説明する。	
10:45	2. 「進路先の訪問を終えて、感じたことや考えたことを教師といっしょにまとめる」 ・感じたことを教師と対話しながら思い出す。 ・質問したことを振り返る。 ・考えたことを紙に書く。 3. 今後の進路について今の考えをまとめる。 ・自分の気持ちを教師と対話しながら整理する。 ・考えたことを紙に書き出し、考えをまとめる。	◎生徒が主体的に考えられるよう、生徒と対話しながら、考えを引き出すようにする。 ◎生徒と対話しながら、気持ちを絵や図、文字で紙に書き出し、整理できるようにする。 ◎考えたことを認め、生徒の自信につなげる。	
11:20	4. 次時の確認、あいさつ ・本時の振り返りをする。 ・あいさつをする。	◎良かったところを伝える。 ◎あいさつを促す。	

PC
ワークシート
マジック
など

総合的な学習の時間（進路学習）

中学部 2年 氏名 S・H 十分達成◎、おおむね達成・継続指導○、欠席一

単元名	評価規準		評価
進路について考えよう	知	・教師の話を聞いて、どのような選択肢があるのかがわかっている。 ・実際に進路先を訪問し、どのような学校なのか知る。	◎
	思	・自分自身のことについて（長所や、苦手なことなど）を考えている。 ・目指したい姿について考えている。 ・進路先で質問したいことを考え、まとめる。 ・進路先の訪問を終え、今後の進路希望を考えている。	◎
	主	・進路選択を自分のこととして考え、自分の進路をより良いものにしようとしている。	◎

・進路の選択肢として、学校見学のことを思い出したり教師の説明を聞いたりして、本校の高等部と岩見沢高等養護学校があると理解できた。また、「決めるのは親や先生ではなく、自分だ」と理解し、主体的に考えようと取り組んでいた。

・始めはどのように進路選択をしたら良いかわからずにいたが、教師と対話しながら「気になること」を考えていった。その結果、勉強のこと、友人関係のこと、寄宿舎生活のこと、体（リハビリ）のことなどが進路選択のポイントと考え、それらのことを、進路先を訪問する際に質問しようと考え、まとめることができた。

・進路先を訪問した際は、先輩の様子や校内、寄宿舎の様子をしっかりと見て、「楽しそう」、「難しそう」などの感想を述べていた。

・振り返りの学習では、自分の言葉で感じたことをまとめることができた。本単元の学習に入る前に比べ、進路を自分のこととして主体的に考える姿勢が身についたことや、自分の得意なことや苦手なこと、自分が身を置く環境にはどのようなことが必要なのかなどを考えることができた。中学2年の現在の時期としては、十分な取り組みができたと考える。反省点としては、「なりたい姿」や「高校生活へのあこがれ、楽しみ、成長」といった、ポジティブなイメージから進路選択ができれば良かったと考える。今回は本人から出てきた言葉から考えを整理していったが、心配や不安などの要素が強かった。本単元は終了するが、今後も継続的に自分の進路について考える機会を設定し、「よりよい自分を目指す力」の育成に努めたい。

主体的で対話的な深い学びの実現

～英語～

高等部英語 略案 10～11月

月 日 () ～計 コマ

目標：①ローマ字で書かれた言葉、単語を読むことができる。
②短い英文を用いて、教師に要望を伝えることができる。

後々にPCの
ローマ字入
力を想定。

単
元
計
画

①
50音表
への理解
あ～ん

②
濁音

③
拗音

④
特殊音

⑤
特殊音

⑥
ALT

⑥～
PC打ち

⑥以降
は各授業
毎に時間
を設定

導入

展開①

展開②

まとめ

あいさつ 本時の説明
Good morning /Hello
Please teach me today's school
lunch/What did you eat breakfast

★NW
あ～ん→50音表の読み方を確認
★TR
大文字で書かれた単語を

★Ph
Please stop , Right , Left , straight ,
Thak you ,
★Ac
宝の地図に書かれた場所へ向かう。車椅子
を押している職員に英語で支持を出す。

本時の復習
次時予告

=教材=
・50音表
・いろがみ(小)
・地図
・宝物

=実態=
・各教科は小学校低～中学年程度の学習を実施している。
・アルファベットは入っている。
・大文字○、小文字△
・短期記憶に弱さあり
・呼吸器疾患があり、体調不良での欠席が多い。
・学習意欲はあり、楽しむことはできる。

=課題=
・1人の授業である。
・平仮名の段、行の概念がなかった。
・欠席が多く、記憶面の課題もあり、定着するのに時間が掛かる。
・意欲はあるが、受け身であり、教師へ頼りがち。

授業改善のポイント

主体的

物理的な距離も大切。
楽しみながら取り組むことができるような題材設定。

→ 宝の地図を使った校内散策。 課題中は離れる。

対話的

なにが、どのように役立つのか説明しながらすすめる。

→ 単元内の見通しや、ローマ字から平仮名への変換で今後どう豊かになるのか議論しながらすすめる。

深い学び

筋トレ的に繰り返すことのできる課題設定。
ゴールは思い出に残る場面設定。

→ いろがみ（小）を使って、達成感×繰り返し。
ALTとの時間を活用し、定着を。

その他

国語的な内容も・・・。横断的な・・・。将来にむけた内容を・・・。目の動き・・・etc

主体的

物理的な距離も大切。

楽しみながら取り組むことができるような題材設定。



宝の地図を使った校内散策。 課題中は離れる。

・ 課題中、すぐ前や横にいる状態では集中できなかったり、考えずに教師に質問してしまったりしていた。

⇒物理的に距離をおくことで、机上の課題への集中力の向上（視界が移動しない）、自分で考える癖が定着し、取り組むことのできる問題数も向上した。

・ 宝の地図を使った校内散策を提案

⇒目的をもって、楽しみながら取り組むことができるよう、宝の地図を使った校内散策を提案。
本番はALTとの学習ということ、本番前の練習段階でも校内の教師に見てもらえることが意欲の向上につながった。

対話的

なにが、どのように役立つのか説明しながらすすめる。



単元内の見通しや、ローマ字から平仮名への変換で今後どう豊かになるのか議論しながらすすめる。

- ・単元の見通しをもつ

⇒ローマ字読み→課題の繰り返し→コミュニケーションのフレーズ→宝探し→ALTのようにロードマップ的な説明をすることで、見通しをもった学習ができた。

- ・どう豊かになるのか

⇒まなんでいることがどう役に立つのか具体例がでるまで議論した。ただ知識としての積み上げでなく、知識を多面的に捉えることができたかもしれない。

授業改善での結果

深い学び

筋トレ的に繰り返すことのできる課題設定。
ゴールは思い出に残る場面設定。

いろがみ（小）を使って、達成感×繰り返し。
ALTとの時間を活用し、定着を。

・筋トレ的に繰り返す。

⇒理解した内容を活用するには、筋トレ的な活動も重要だと考えている。小さいいろがみサイズの問題用紙を使うことで、一区切りまで飽きさせない、次から次に行く意欲がわく、終わった後の達成感ある・・・などの理由で定着するまでが早かった。

・ALTの活用

⇒ある程度定着した知識が、より深くきざまれるよう、実施予定だったが、当日欠席。

その他

国語的な内容も・・・横断的な・・・将来にむけた内容を・・・目の動き・・・etc

「生活科」単元計画（案）～「大きくなったわたしたちのからだ」～

児童生徒名 (指導者)	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T ○串田、○岩瀬、大和、志藤、佐々木、(石川)	児 童 計6名 指導者 計4～5名	主担当	串田、岩瀬
実施期間	令和6年11月12日(火)、14日(木)、19日(火)、21日(木)、26日(火) 2校時目(10:05-10:50)※火2音楽と入れ替えて実施する		単位時間数	5時間
学習指導要領 段階	生活科(オ 人との関わり) 1～2段階			
学習概要 (設定理 由)	【児童観】 本学習集団は4年男児1名、5年男児1名、6年男児3名と女児1名の計6名で構成している。女児1名については、昨年度より生理の仕組みや手当ての実際(紙パンツから通常スタイルへの移行)について指導を行っており、体の変化(胸の膨らみ)も見られ始めている。そのため、異性との距離感や接し方についての指導の必要性が高まっている。 一方、男児5名については、体の変化(精通等)に関する家庭での理解や情報共有がほとんどなく、性に関する疑問や相談も家庭で行われていないことが保護者への事前アンケート(以下「アンケート」)から明らかとなった。加えて、M.J.のように、他者との身体的な距離感を適切に保つことが難しい児童もあり、他者との接触やプライベートゾーンに関する指導が喫緊の課題である。S.A.についても、第二性徴に伴い、特に異性との距離感に関する学習が必要であることが示唆されている。 本校には知的障害、肢体不自由、発達障害がある児童が混在しており、生活経験や身体的な自己認識の発達に個人差が大きい。アンケート結果からもわかるように、家庭で性に関する話題がほとんど取り上げられていないため、学校での指導が特に重要となっている。そのため、経験不足を補い、自分の体を尊重し、適切な人間関係を築く力を育てることが大切である。この学習は中学部への橋渡しだけでなく、将来の社会生活における基礎を築くものである。 児童の発育・発達の観点から、一般的に小学4年生頃から個人差はあるものの第二性徴の兆しが見られ始める。本集団でもその兆しが見られる児童が複数いるため、適切な性指導を行い、体の変化を受け入れつつ、健全な自己認識をもつための教育が必要である。また、子どもたちの発達や理解力に応じた個別最適化された指導を行い、社会生活に適応するための基盤を整えていく。 特別支援学校の児童にとって、この学習は特に重要である。なぜなら、彼らは一般的な児童に比べて、性に関する理解や適切な対応を学ぶ機会が限られているためであり、日常生活での実践を意識した指導が不可欠だからである。 【教材(題材)観】 本単元では、以下の内容を取り扱い、主に性(心と体)に関する指導を通して目標達成を目指す。特に、他者との適切な距離感やプライベートゾーンの認識、家庭での指導不足を補う学習内容を充実させることが必要である。 オ 人との関わり ○1段階 小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師や身の回りの人に気づき、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。 (イ) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。 ○2段階 身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話をしようとする。 (イ) 身近な人との接し方などについて知ること。 性に関する指導の目標や指導内容は、普通小学校と特別支援学校で基本的には変わらないが、児童の発達段階や家庭での指導機会の不足を考慮して指導内容を精選することが重要であるとされている。 そこで、単元の前半では、生命の尊さや自分の体の成長と変化、性別による体の違いについて理解し、自他を大切にすることを育むための学習を行う。後半では、他者との距離感やプライベートゾーンに関する理解を深め、危険回避や自己管理能力を育むための学習を設定する。 外部講師の活用を検討しており、これにより児童たちにとって特別な学習機会となることが期待される。また、保護者との連携を重視し、事前・事後のアンケートや授業参観を通じて、学校と家庭が一体となった取り組みを目指す。これにより、学習の成果が日常生活に般化し、家庭でも子どもの成長を支援する機会を高めることが期待される。 このような教材や学習活動を通じて、児童が自他の体を大切にすることを育み、適切な自己管理能力を身につけ、将来に向けての基盤を整えることを目指す。 【指導観】 本単元の指導にあたっては、以下の点に留意して進める(外部講師の山崎さんとお話しながら具体化していく)： 1. 個別最適化：児童一人ひとりの発達段階、理解力、経験に応じて指導内容や方法を調整する。特に、境界やプライベートゾーンに関する理解を促進するため、具体的な視覚教材や実物教材を多用し、体験を通じて理解を深める。児童の理解度を確認しながら、必要に応じて繰り返し指導を行い、ロールプレイやクイズ形式の活動を積極的に取り入れ、知識や技能の定着を図る。 2. 安全で信頼できる環境づくり：児童が安心して質問や発言ができるよう、温かい雰囲気づくりを心がける。プライバシーや個人の尊厳を尊重し、他者を思いやる態度を育成する。たとえば、「下ネタ＝大好きだけど、言って			

	はダメと言われている言葉」で騒ぐ状況があったとしても、特に止めず「良いリアクションだね。」と認め、自分たちで静かになって学習モードに戻ってこれたことをほめるようにする。 3. 多感覚アプローチ：視覚、聴覚、触覚など、多様な感覚を活用した学習活動を取り入れ、理解の定着を図る。 4. 実生活との関連付け：学んだ内容を日常生活に結びつけられるよう、具体的な場面設定やロールプレイを取り入れる。例えば、プライベートゾーンの具体的な境界線や、異性との距離感についてシチュエーションを設定し、児童が自らの行動を振り返る機会を提供する。 5. 家庭との連携強化：家庭での性教育が行われていない現状を補うため、保護者アンケートや授業参観を通じて、学校と家庭が一体となって指導に取り組む体制を構築する。特に家庭内での支援不足をカバーするために、学校での指導内容や進捗状況を定期的に共有し、家庭での支援を促す。また、親子で話し合えるようなリソース（絵本や動画）の提供も考慮する。 6. 専門家との協働：外部講師と連携し、多角的な視点から指導を行う。特に、専門家による性教育に関する指導を通じて、保護者との連携を含めた包括的な学習支援を行う。 7. 継続的な評価と改善：児童の理解度や態度の変化を定期的に評価し、指導計画や方法を柔軟に調整する。特に、触れ合いに関する態度の改善や、感情のコントロールが向上しているかを観察し、必要に応じて指導方法を見直す。 これらの指導観に基づき、児童一人ひとりの成長を支援し、生涯にわたって自他の体と心を大切にする態度を育成していく。また、知的障害、肢体不自由、発達障害など、多様な特性を持つ児童が在籍していることから、それぞれの理解力や経験に合わせた指導内容の精選と工夫を行う。
--	--

単元の目標	
知識及び技能	【１段階】 自分の心や体に関心をもつとともに、身近な人々と自分との関わりに関する初歩的な知識や技能を身に付ける。
	【２段階】 自分の心や体の変化に気付くとともに、身近な人々と自分との関わりに関する基礎的な知識や技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	【１段階】 自分自身の体のことや、身近な人々と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。
	【２段階】 自分自身の心と体のことや、身近な人々と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。
学びに向かう力、人間性等	【１段階】 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。
	【２段階】 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々に自ら働きかけようとして、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

自立活動区分・項目
6 区分名【（項目番号）内容記載】
1 健康の保持 （１）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること ④衣服の調整 ⑤清潔の保持
2 心理的な安定（１）情緒の安定に関すること ③快不快
3 人間関係の形成（１）他者とのかかわりの基礎に関すること ①基本的な信頼感
4 環境の把握（５）認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること ①概念の形成
5 身体の動き （３）日常生活に必要な基本動作に関すること ①身辺処理の基本動作

各教科との関連性		
体育科（保健領域）		
G 保健 1 段階 ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。 イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。		

特別の教科道徳の観点
指導項目領域アルファベットー（項目番号）項目名
B主として人との関わりに関すること （7）親切、思いやり 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
D主として生命や自然、崇高ものとの関わりに関すること （19）生命の尊さ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
C主として集団や社会との関わりに関すること （15）家族愛、家庭生活の充実 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。

学習計画（教育的ニーズ、育成したい資質・能力等を踏まえて）	ねらいと評価計画
-------------------------------	----------

期日	主な学習計画（例）	知・技	思・判・表	主体的
11月12日(火) 2校時 ※時間割変更	○わたしたちはどのように生まれ、成長してきたの？※外部講師 ●導入（5分） ・自己紹介と本日の学習内容の説明 ・児童の興味を引き出すための簡単なクイズ ●生命の誕生について（15分） ・卵子と精子の役割を簡単に説明 ・胎児の成長過程を視覚的教材（模型や動画）を用いて説明 ●成長の過程（15分） ・赤ちゃんから大人になるまでの体の変化を写真や絵で示す ・児童自身の成長アルバムを使用（事前に家庭から提供してもらう） ●まとめと振り返り（10分） ・学んだことの簡単な復習 ・感想や質問の時間	○		
14日(木) 2校時	○じぶんのからだのへんか ●前回の振り返り（5分） ・前回学んだ内容の簡単な復習 ●体の名前・変化クイズ（10分） ・体の部位や身長、体重、筋肉、体毛などの変化に関する○×クイズ ●自分の体の変化を観察しよう（25分） ・身長計や体重計を使って実際に測定 ・過去の記録と比較し、変化を視覚化 ・成長アルバムの作成 ●まとめ（5分） ・学んだことの復習と次回の予告		○	
19日(火) 2校時 ※時間割変更	○からだのとくべつにだいじなところ※外部講師 ●導入（5分） ・前回の復習と本日の学習内容の説明 ●男女の体の違い（10分） ・教材を使用して基本的な身体の特徴を知る ●プライベートゾーン（とくべつにだいじなところ）について（15分） ・プライベートゾーンを示した人体図を使用 ・「見る」「触る」「見せる」「触らせる」はしない ・一人の場所で「見る」「触る」はOK ・絵本などの教材を活用 ●クイズ（10分） ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について ●まとめと質問時間（5分） ・学んだことの復習	○		
21日(木) 2校時	○うれしいタッチ・いやなタッチ（同意教育を含む） ●導入（5分） ・これまでの学習内容の簡単な復習 ●身体を大事にするってどんなこと？（5分） ・イラストや写真などをヒントに考える。 ●ふれあいあそびをしよう（10分） ・「おしくらまんじゅう」「大根抜き」など ●「うれしいタッチ」と「いやなタッチ」を知ろう（10分） ・様々なシナリオを設定し、絵カードなどで仕分けする ●練習しよう（10分） ・「タッチサイコロ」をつかって出た面に書かれている言葉を相手に言ってみる。「いいよ。」「やめて。」と言う練習。 ●まとめと全体の振り返り（5分） ・学んだことの復習			○
26日(火) 3・4校時	○人との距離感「あいだ」 ●導入（5分） ・前回の復習と本日の学習内容の説明 ●人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、ワークシートにまとめる（30分） 1：あいさつのしかた 2：すいどうまえのならびかた 3：ともだちのさそいかた	○	○	

【1段階】
・自分がどのように生まれ、成長したのかを知る。
【2段階】
・自分がどのように生まれ、成長したのか分かる。

【1段階】
・自分自身の体について掲示物やワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとする。
【2段階】
・自分自身の体について掲示物やワークシートにまとめ、気付いたことや感じたことを伝えようとする。

【1段階】
・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について知る。
【2段階】
・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について分かる。

【1段階】
・ふれあいの楽しさを実感する。
【2段階】
・ふれあいの楽しさや同意を得ることの大切さを実感する。

【1段階】
・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとる。
【2段階】
・適切な距離と不適切な距離を区別

	4：えほんをみせてもらうときのこえのかけかた ●動画視聴とまとめ（10分） ・人との距離感には、「体の距離感」と「心の距離感」のふたつがある。 ・親しくても、近すぎるといやだなと思うときは、すぐに離れてよいこと、友だちがさわられるのを嫌がったら、すぐにやめることが大切。 ・自分の気持ちや考え方は自分のものだから、どんな気持ちをもって、どんな考え方をするかは自分で決めていい。 ・人との距離感が守られないときは、「『いやだ!』『やめて!』『だめ!』とはっきり断る」、「そこから逃げる」「あんしんできる大人に伝える」	し、自分の感情を表現できる。
--	--	----------------

留意事項・共通事項・準備物等				
■留意事項 ～「『心と体』に関する指導の運用について」より抜粋～ ○家庭・地域社会との連携 ・学校における性教育を実施するに当たっては、家庭・地域との連携を推進し、保護者や地域の理解を得ることが大切。 ・学校公開日等で授業公開をしたり、学年だより等で情報の提供をしたりするなどして、性教育のねらいや学習内容を周知し、保護者や地域の理解を得た上で実施します。 ○指導内容については、学年や発達を考慮したり、内容を簡単にしたりして、理解しやすいもので設定を行う。 ※すべての項目について網羅するのではなく、あくまで子どもの実態に応じて計画実施をする。 ※小学生段階では性交についての内容は取り扱わないこととされている。				
■共通事項 ～「『心と体』に関する指導の運用について」より抜粋～ ○難聴がある子ども ・聴覚からの情報が少ないことから、状況や場面によって言葉のもつ細かなニュアンスの違いなどの理解が難しいことがある。コミュニケーションの方法として、携帯電話やインターネットの活用が多くなるに伴い、得られる情報量が増加しているが、特に性に関する情報については、安全に正しい情報をつかようできるマナーやスキルを身に付けられるよう配慮することが必要である。 ・教材選択に当たっては、目で見て分かる写真や動画コンテンツなどの視聴覚教材が有効であるが、子どもの発達の段階や実態に応じて、分かりやすい言葉で情報を補うなど、言葉の理解への配慮が大切である。 ○知的障害がある子ども ・子どもの障害の状態や特別支援学校、特別支援学級の実態を考慮し、人格的発達を促していくための教育活動の一環として、全教育活動を通じて体系的・計画的に行う必要がある。特に、性に関する指導を通して、日常生活の基礎的・基本的事項について身に付けることができるようにするとともに、自己の性についての認識や、他者への認識を深めることが大切である。さらに、子どもの心身の発育・発達に応じて、社会性や男女の豊かな人間関係を育て、生命の尊さに気付く、将来を積極的に生きていこうとする意欲や態度を育てることが必要である。 ・教材の選択に当たっては、理解力に個人差が大きいため、個に応じた多様な教材を準備することが求められる。絵図や模型、視聴覚教材などできるだけ子どもが理解したり、イメージしやすいように具体的な教材を用いたり、独自に教材を開発したりするなど工夫する必要がある。 ○肢体不自由がある子ども ・日々の活動範囲が限られてしまうことで、社会経験の少ない子どもがいる。また、身体に障害があることによって、自身自身の障害の理解や受容ができず、自己肯定感をもてなかったり、自己の体の発達や変化を理解したり受け入れたりすることに大きく影響する。そのため、悩むことや葛藤を予測し、それを乗り越えるための指導・支援をすることが必要である。 ・教材選択に当たっては、視聴覚教材やコンピューター等を積極的に活用し、経験お不足や偏りを補ったり、子どもが自分で操作をして体験できるように表記や表現が適切な教材・教具を工夫したりして、学習効果を高めていくことが大切である。 ○自閉症がある子ども ・他人と意思疎通や対人関係形成の困難さなどがあることから、他人の考えや気持ちを理解するなどして、友達関係や信頼関係を形作ることなどが難しいことが多い。異性との関わり方など、場面に応じた実地的な体験の機会を多くするとともに、分かりやすい言葉で具体的な行動等の意味を理解できるようにしていくことが必要である。 ・教材選択に当たっては、自閉症の特性を考慮し、視覚を活用した情報（写真や図面、模型等の活用）を提供するなどの工夫する必要がある。				
■家庭との連携 ○保護者アンケート実施（事前・事後）…お子さんのご家庭での様子（心、体、性について）で気になることや変化を聴取 ○実施時や実施後の様子や変化を共有し合う…ワークシート等を活用				

個別の目標（評価基準 ◎：十分に達成できた ○：概ね達成できた △：○に満たない）				
学年	児童生徒名	評価規準		特記事項
4	Y.H ※男児 (1段階)	知	・自分がどのように生まれ、成長したのか関心をもって見たり聞いたりしている。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について関心を	◎ △ 単元を通して「成長」や「生まれる」過程に興味を示し、具体的な活動（産道

			もって見たり聞いたりしている。 ・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとろうとしている。	△	体験や写真貼り）では積極的に取り組む姿が見られました。一方、指導者と距離感を意識しながら行動する場面や、ふれあい活動の楽しさを十分に感じる場面は少なく、活動よりも人形など別の対象に気を取られる様子が目立ちました。 また、活動後に指導者と感じたことを共有しようとする姿勢も限定的で、表現力の伸びにはさらなる支援が必要と考えられます。
		思	・自分自身の体についてワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとしている。	○	
		主	・ふれあいの楽しさを実感している。	△	
5	M. J ※男児 (2段階)	知	・自分がどのように生まれ、成長したのかが分かっている。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について分かっている。	◎ ○	自分の体や性についての知識を積極的に発言する意欲を示し、理解が進んでいる部分もあったが、誤った知識や曖昧な理解も多く、引き続き丁寧な指導が必要。 思考や表現面では、絵カードなどの補助を用いることで感情や気付きを示す場面が確認されたものの、自信を持って表現する力は今後の課題。 主体的な態度では、活動への参加意欲を示したり、柔軟に意見を変えたりする姿勢が見られたが、感情コントロールや他者との関わりにおいて指導を要する場面も多く、社会性の強化が重要である。
		思	・自分自身の体についてワークシートにまとめ、気付いたことや感じたことを伝えようとしている。 ・適切な距離と不適切な距離を区別し、自分の感情を表現しようとしている。	○	
		主	・ふれあいの楽しさや同意を得ることの大切さを実感している。	○	
6	U. K ※男児 (1段階)	知	・自分がどのように生まれ、成長したのか関心をもって見たり聞いたりしている。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について関心をもって見たり聞いたりしている。 ・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとろうとしている。	○ △ ○	指導者の支援を受けながら活動に参加することができ、タブレットやカード貼りなどの具体的な作業には意欲を持って取り組む姿勢が見られた。一方で、活動内容や学習の本質的な理解には至らず、特にプライベートゾーンや距離感の体験については課題が残る。 自身の体に関する表現や他者とのふれあいを通じた主体的な楽しさの実感は弱く、引き続き支援が必要な段階といえる。
		思	・自分自身の体についてワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとしている。	欠席	
		主	・ふれあいの楽しさを実感している。	○	
6	S. T ※男児 (1段階)	知	・自分がどのように生まれ、成長したのか関心をもって見たり聞いたりしている。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について関心をもって見たり聞いたりしている。 ・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとろうとしている。	○ △ ○	教材やタブレットのクイズに意欲的に取り組む姿が見られ、活動自体への興味関心は高い。一方で、学習内容の理解や友達との関わりを通じたふれあい活動には課題が残り、特に社会性や表現力の育成が求められる状況。 理解や興味を深めるためには、触れる・体験する活動を増やし、実感を伴う学習を通じて内容を定着させる必要がある。
		思	・自分自身の体についてワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとしている。	○	
		主	・ふれあいの楽しさを実感している。	○	
6	S. A	知	・自分がどのように生まれ、成長したのかが分かっている	◎	自分自身の成長や体験に

	※女児 (2段階)		る。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について分かっている。	△	について興味を持ち、主体的に活動に取り組む姿が見られる一方で、絵カードを使った判断やプライベートゾーンの理解では課題が確認された。 照れ隠しや授業への戻りに困難を感じる場面があり、継続的な集中や社会性を育むための環境調整が必要である。
		思	・自分自身の体についてワークシートにまとめ、気付いたことや感じたことを伝えようとしている。 ・適切な距離と不適切な距離を区別し、自分の感情を表現しようとしている。	○	
		主	・ふれあいの楽しさや同意を得ることの大切さを実感している。	○	
6	A.T ※男児 (1段階)	知	・自分がどのように生まれ、成長したのか関心をもって見たり聞いたりしている。 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について関心をもって見たり聞いたりしている。 ・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとろうとしている。	○ △ ○	外部講師の授業や具体的な活動に対して一定の関心を示し、前向きに参加する姿勢が見られる。一方で、自身の成長やプライベートゾーンに関する理解はまだ浅く、動作をイメージする活動には難しさがあった。 指導者とのふれあいでは楽しさを感じる様子が確認できたが、友達との関わりや距離感にはイメージが付きにくい様子があった。社会性の育成が引き続き課題となる。
			・自分自身の体についてワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとしている。	△	
			・ふれあいの楽しさを実感している。	○	
		思			
		主			

単元（題材）評価（○：十分である △：検討が必要）				
期日	時数	内容	教材	学習グループ
○	○	△	△	△

全体を振り返って（成果と次年度への課題）	
【成果】 1. 児童の積極的な参加意欲 ○ 外部講師による授業やタブレットを活用したクイズ、体験型の活動（例：身長測定や赤ちゃん人形の抱っこなど）を通じて、多くの児童が意欲的に参加する姿勢を見せてくれた。 2. 個別支援の効果 ○ ○×札や絵カードなど、児童の特性に応じた補助教材を用いることで、一部児童が自分の気持ちを選択・表現できた。 3. 活動を通じた成長 ○ 身長測定やワークシート作成を通じて、「大きい」「小さい」などの概念を理解した児童や、写真や資料を見て自身の成長を振り返る姿が確認できた。 ○ ふれあい遊びでは、最初は消極的だった児童が後から参加意欲を見せるなど、活動中に成長を感じられる場面もあった。 4. 指導者間の協力と改善 ○ 振り返りの中で、指導者が児童の反応を共有し合い、次の授業に向けた改善案を出し合うことができた。 ○ 授業内容の成功例や失敗例を具体的に分析できたことは、今後の指導の質向上に繋がる。 【次年度への課題】 1. 内容の適切な設定 ○ 一部の授業では、テーマや活動が特定の児童向けに偏り、他の児童が十分に学べなかった場面があった。 ○ 全児童が主体的に参加できるように、グループ分けや個別の目標設定を工夫する必要がある。 2. 表現力を引き出す支援 ○ ワークシート作成や絵カードを使った活動で、自分の感じたことや気付きについての表現が難しい児童が多かった。 ○ 日常的に感情や気付きを表現する活動を充実させる必要がある。 3. 抽象的なテーマの理解を促す工夫 ○ プライベートゾーンや距離感といった抽象的なテーマについては、児童の理解が進みにくい場面があった。 ○ より具体的な教材（人形や映像、ロールプレイなど）や、児童の日常生活に即した例を取り入れることで、理解を促進する工夫が必要。 4. 児童の実態把握の徹底 ○ 一部の授業では、児童の理解度や興味関心が十分に反映されない活動設定があった。	

- 授業前に児童の特性や反応をより深く観察し、教材や指導内容を調整することが重要。

【次年度の具体的な改善案】

1. 目標の個別化とグループ活動の導入
 - 児童ごとに目標を柔軟に設定し、達成状況に応じて個別支援を調整する。
 - 児童の特性に応じたグループ分けを行い、それぞれに適したテーマを設定する。
2. 具体的で体感的な教材の活用
 - 赤ちゃん人形やフープ、人形を使ったロールプレイ、写真や映像など、具体物を活用した教材を多く取り入れる。
 - プライベートゾーンや距離感については、視覚的・体感的な学習を優先する。
3. 活動内容の精選と時間管理の改善
 - クイズや補助活動の数や内容を厳選し、児童の集中力や時間内の進行を意識した計画を立てる。
 - ワークシート記入や活動後の振り返りタイムを設定し、児童が活動を整理する時間を確保する。
4. 表現力を育む活動の強化
 - 感情を言語化・表現する活動を繰り返し行い、絵カードや手話、言葉など多様な方法を活用する。
 - 児童のペースに合わせて段階的に支援を行い、成功体験を重ねることで表現力を引き出す。
5. 振り返りとチームの連携
 - 授業ごとに指導者間で児童の反応を共有し、次回の指導に反映する体制を強化する。
 - 授業準備段階で児童の実態を話し合い、教材や指導方法のアイデアを共有することで、チームでの指導の質を向上させる。

○個別の指導計画 生活科 目標（後期）※確定し次第入力

Y. H・掃除の机拭きでは、拭き残しがないように拭くことができる。

M. J・床掃除では、ほうきを使って濡れた新聞紙を一人で集めることができる。

S. T・調理や制作の工程において、内容を理解して自分で選択し、自分から作業をしようとすることができる。

U. K・調理や制作物の工程の一部に自分で取り組み、繰り返し手を動かすなど、意欲的に行うことができる。

S. A・トイレで排せつすることができる。

A. T・手順書などに示された歯に歯ブラシを当てて、2～3分の間、手を動かして歯を磨くことができる。

「生活科」学習指導略案

題材（単元）名	○わたしたちはどのように生まれ、成長してきたの？※外部講師による授業	
日時	令和6年11月12日（火） 10:05～10:50	
場所	5番教室	
児童名	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T	
指導者名	○串田、○岩瀬、志藤、佐々木	
題材（単元）の目標	【1段階】 ・自分がどのように生まれ、成長したのかを知る。（知識・技能） 【2段階】 ・自分がどのように生まれ、成長したのかが分かる。（知識・技能）	
時間	学習内容	配慮事項・備考
10:05	導入 1. はじめの挨拶。 2. 本日の学習内容についての説明を聞く。 3. 講師を拍手で迎える。 「自己紹介簡単に今日は赤ちゃんのお話をします。」 ・赤ちゃん人形（学校の教材使用） 「何キ口くらいあると思う？」 ・実際抱っこしてもらい、感じたことを自由に言ってもらおう 「では、赤ちゃんのいのちはどうやってできるんだろう？」	・はじめの挨拶や自己紹介は、親しみやすい雰囲気で行い、児童がリラックスして学習に参加できるようにする。 ・赤ちゃん人形を使用して、児童の関心を引き出す。
10:08	生命の誕生 4. 視覚教材（パネルシアターなど）を見ながら、卵子と精子の役割について知る。 5. 胎児が母体の中で成長する過程を動画や模型を通じて観察し、どのように人が生まれるのかを理解する。 「いのちの素があるよ。男の人は精子 女の人は卵子。精子と卵子が合わさって命ができるよ。精子と卵子はどこにある？じゃあどうやって合わせるの？」 「奇跡的にできた命がみんなのいのちなんだよ」	〈使用物品〉パネルシアター、ホワイトボード ・難しい言葉は避け、わかりやすい表現で説明する。イラストや模型などの視覚教材を使用し、児童が「生命の誕生」についての基本的な知識を楽しんで学べるようにする。 ・短く区切りながら説明し、児童が理解しやすいよう工夫する。 《評価基準》 ◆自分がどのように生まれたのか関心をもって見たり聞いたりしている。（1段階） ◆自分がどのように生まれたのかが分かっている。（2段階）
10:20	妊娠経過 6. 妊婦に見立てた講師に食べて欲しい食材モデルを手渡し、徐々にお腹の赤ちゃんが成長する姿を見る（パネルシアター）。 「お腹の中でどうやって大きくなるの？」 「おへそから栄養とか酸素をもらって大きくなるよ」	〈使用物品〉パネルシアター、食材のモデル ・成長過程の絵や写真も活用し、児童がさまざまな成長の姿を理解できるようにする。児童が自分の成長に自信を持てるよう、ポジティブな雰囲気をはがける。
	出産体験 7. 出産体験したい児童は前に出て、体験する。 8. 感想を発表する。 ・お母さん役を先生、赤ちゃん役を誰か生徒さん 「色んな人が協力して一番はお母さんと赤ちゃんが頑張って生まれてきたよ！」	〈使用物品〉下に敷くマット、出産体験媒体
11:45	まとめと振り返り 9. 前時に作った成長アルバムを見る。 「そうして生まれてからもお家の人や色んな人の愛と自分の力でここまで大きく育ったね。」 10. 感想や質問を考え、発表する。 11. 終わりの挨拶をする。	・振り返りでは児童が理解した内容をしっかり受け止め、成長を実感できるよう、ポジティブなフィードバックを行う。 ・感想や質問を受けることで、さらに興味を深められるような補足説明

		も行う。 ・ 終わりの挨拶で学びを振り返り、次回の学習への意欲を高める。 《評価基準》 ◆自分がどのように成長したのか関心をもって見たり聞いたりしている。（1段階） ◆自分がどのように成長したのかが分かっている。（2段階）
準備物	☐ 視覚教材（卵子・精子の役割を示すイラストや模型） ☐ 胎児の成長過程に関する動画（簡潔で児童が視覚的に理解しやすいもの） ☐ 成長アルバム（家庭から事前に提供された児童の成長記録） ☐ 成長の過程を示す写真や絵	

「生活科」学習指導略案

題材（単元）名	○じぶんのからだのへんか	
日時	令和6年11月14日（木） 10:05～10:50	
場所	5番教室	
児童名	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T	
指導者名	○串田、○岩瀬、志藤、佐々木	
題材（単元）の目標	【1段階】 ・自分自身の体について掲示物やワークシートにまとめ、指導者と一緒に感じたことを伝えようとする。（思考・判断・表現） 【2段階】 ・自分自身の体について掲示物やワークシートにまとめ、気付いたことや感じたことを伝えようとする。（思考・判断・表現）	
時間	学習内容	配慮事項・備考
10:05	はじめの挨拶と前時の振り返り 1. 挨拶と今日の学習内容の紹介 2. 前回学んだ内容「生命の誕生」や「成長過程」について振り返る。視覚教材や成長アルバムを見ながら、自分がどのように成長してきたかを思い出す。	・児童と一緒に元気よく挨拶をし、今日の学習の流れをわかりやすく説明する。 ・前回の内容を思い出しやすいように、成長アルバムやスライド教材を用いて復習を行う。
10:10	体の名前・変化が分かるかな？ 3. 体の部位や身長・体重の変化に関するクイズに参加。 4. kahoot!を活用し、知識を深める。	・簡単なクイズ形式で楽しく参加できるように進行し、視覚教材や絵カードを使ってわかりやすく説明する。 ・クイズを通して児童の集中を引き出す。児童に応じて質問内容や回答方法を工夫する。
10:20	成長したかな？（廊下掲示板を使用） ※廊下に出て活動する 5. 廊下に掲示された自分の場所で現在の身長を測り、指導者と一緒に紙テープを貼る。 6. 過去の身長の記録と現在の記録を見比べて、自分の成長を確認したり、写真を撮ったりする。 ※教室へ移動 7. 自分の成長写真を使って、パネル教材のキャラクターと成長段階を比較し、対応させて貼る。次に、自分の体の成長を知り、どんな気持ちになったか考え、絵カードを貼ったり、書いたりする。	・児童が自分の成長を視覚的に確認できるよう過去写真や紙テープを使用する。 ・自分と他者の違いを学べるよう。他の児童と成長段階を比べる機会を設定する。 ・各児童が成長を実感できるよう過去の写真やパネル教材を使用。 《評価基準》 ◆自分自身の体について指導者と一緒に掲示物やワークシートにまとめようとしている。（1段階） ◆自分自身の体について掲示物やワークシートにまとめようとしている。（2段階）
11:40	発表しよう 8. 指導者の質問を受けながら自分の成長について発表する。 9. 他の児童の話も聞きながら成長の多様性を学ぶ。 ※教室へ戻る	・発表が苦手な児童には個別にサポートし、自信をもたせるような言葉かけを行う。 《評価基準》 ◆自分自身の体について指導者と一緒に感じたことを伝えようとしている。（1段階） ◆自分自身の体について気付いたことや感じたことを伝えようとしている。（2段階）
11:45	まとめと終わりの挨拶 10. 学んだ内容を簡単に振り返り、次回の学習内容に対する期待を持つ。 11. 終わりの挨拶	・学んだことをまとめ、振り返りを行う。 ・次回の学習内容を紹介し、期待感をもたせる。
準備物	【前時の振り返り】 □成長アルバム（家庭から提供してもらった児童自身の成長アルバム） □スライド教材 【体の名前・変化がわかるかな？】 □Kahoot!（クイズ用）	

	【成長したかな？】 □パーティション（保健室から借用できるか確認が必要）借用できたら教室で活動できる □身長を測るための紙テープ授業前に児童それぞれの掲示スペースを作成しておく「乳児段階、幼児段階の身長分の紙テープ」と「顔写真」) □写真（乳児、幼児、現在の写真一枚ずつ） 【発表しよう】 □児童が作成した掲示物やワークシート
--	---

「生活科」学習指導略案

題材（単元）名	○からだのとくべつにだいじなところ	
日時	令和6年11月19日（火） 10:05～10:50	
場所	5番教室	
児童名	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T	
指導者名	○串田、○岩瀬、志藤、佐々木	
題材（単元）の目標	【1段階】 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について知る。（知識・技能） 【2段階】 ・男女の身体やプライベートゾーンの特徴について分かる。（知識・技能）	
時間	学習内容	配慮事項・備考
10:05	導入 1. はじめの挨拶 2. 前回の学習内容を振り返り 3. 本時の学習内容についての説明を聞く。 4. 外部講師を呼ぶ。 「今日は体のお話。体はとっても大事。その中でも特別大事なところがあるよ。今日はそのお話。」	・はじめの挨拶や自己紹介は、親しみやすい雰囲気で行い、児童がリラックスして学習に参加できるようにする。 ・クイズは簡単で興味を引く内容にし、視覚的な資料（絵カードなど）も使用して、児童の関心を引き出す。
10:08	男女の体の違い 5. 男女の身体的特徴を学ぶ ・服を着た教材 「お勉強したいのでみてもいいですか？」 「からだはとっても大事だから見せてもらうときや触るときは聞いて、「いいよ」って言われてから触ろう。」 「どこが違う？」 ・男女の体の違いを見つける	〈使用物品〉パネルシアター一式 ・発達段階に応じた適切な人体模型や図を使用する。 ・必要以上に詳しい説明は避け、基本的な違いに焦点を当てる。 ・視覚教材を中心に使用し、必要に応じて分かりやすい言葉で補足する。 《評価基準》 ◆男女の身体の特徴について関心をもって見たり聞いたりしている（1段階）
10:20	プライベートゾーン（とくべつにだいじなところ）について 6. プライベートゾーンの確認 「女の人赤ちゃんが生まれる所、男の人はいのちの素を送り届ける所」 「いのちに関わる体の特別大事なところ」 「プライベートゾーン」と言うよ。 「赤ちゃんが生まれたらおっぱいを飲んでもらうからお胸も大事。」 「他にもお口やお尻。体の中とつながっているからだよ。」 「プライベートゾーンは下着で隠れる所とお口と覚えよう！」 「大事な所なので隠してあげよう、誰か一緒にやってくれるかな？」	〈使用物品〉パネルシアター一式、精子・卵子・赤ちゃん・男女の内性器の媒体 ・水着（下着）で隠れる部分をプライベートゾーンとして説明する。 ・具体的な状況や場面を示して理解を促す。 ・トイレや着替えなど、日常生活と結びつけて説明する。 《評価基準》 ◆プライベートゾーンの特徴について関心をもって見たり聞いたりしている（1段階）
	プライベートゾーン○×クイズ(6分) 7. プライベートゾーンを守るルール ・「見る」「触る」「見せる」「触らせる」の4つの行動について、○×カードを使って確認する。 ・1問目はみんなに問いかける形で ・2問目からは生徒さんに○×を選んでもらう(2個くらい) ・出したクイズはホワイトボードに並べていく ・最後にちょこちょこの絵を出して「これはどうかな？」と問いかける ・2人が楽しいなら○でも、嫌がっているのに続けるたり、無理やりやったりするのは×	〈使用物品〉大きいホワイトボード、小さいホワイトボード、プライベートゾーンの媒体、○×の媒体

	・プライベートゾーンじゃなくても体は全部大事 ・嫌なときは嫌と言っていいよ。「いや」「やめて」と言われたらやめよう。	
	8. 性器触り ・自分でプライベートゾーンを触るのはいくらでもOK! ・でも人に見られない場所で触ろう ・どこがいい?(トイレとかお風呂とか、1人のお部屋の中とか…) ・簡単に○×クイズ(2問くらい 家族がいるお部屋と1人のお部屋、教室とトイレ等) ・大事なところだからきれいな手で(ここも○×クイズ)、痛くないように優しく触ろう ・出したクイズはホワイトボードに並べていく ・性器の洗い方(※保護者の方が来ていたら伝える)お家の人に手伝ってもらうときは触っていいか確認してもらおう。	〈使用物品〉大きいホワイトボード、小さいホワイトボード、性器触りの媒体、○×の媒体
	9. サイコロタッチゲーム(15分) ・サイコロを振って「やっていいですか」と聞く人、Yes か No の意思表示をする人をクジで決める ・Yes ならやる、No ならやらないのルール説明 ・クジは生徒さんに引いてもらう ・最初は先生同士でデモンストレーション ・その後先生と生徒 ・最後できそうなら生徒と生徒 ・最初はOK そうなタッチを入れて触れ合いのレクレーションを楽しむ ・(様子見ながらできそうなら)後半にダメなタッチ系もサイコロの目に入れてみる	〈使用物品〉サイコロ、写真付きのクジ ※サイコロの目 ハイタッチ グータッチ 握手 肩を組む 頭などで 背中などで 肩タッチ ハグ つま先タッチ お尻タッチ 性器タッチ ズボン下ろし
11:45	まとめと振り返り 10. 感想 11. プライベートゾーンどこだったかな? ・人に見られない場所だったら触っていいこと ・からだは全部大事なこと… 12. 終わりの挨拶をする。	・学びを振り返り、次回の学習への意欲を高める。 ・誤答の場合も否定せず、優しく正しい答えを導く。 ・正解時は具体的に褒め、自信につなげる。 《評価基準》 ◆男女の身体やプライベートゾーンの特徴について分かっている。(2段階)
準備物	□ 前時の学習内容、本時の予定(スライド教材) □ 精子・卵子・赤ちゃん・男女の内性器の媒体 □ パネルシアター式 □ 大きいホワイトボード、小さいホワイトボード、性器触りの媒体、○×の媒体 □ クイズ □ サイコロ、写真付きのクジ	

「生活科」学習指導略案

題材（単元）名	○うれしいタッチ・いやなタッチ	
日時	令和6年11月21日（木） 10:05～10:50	
場所	5番教室	
児童名	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T	
指導者名	○串田、○岩瀬、志藤、佐々木	
題材（単元）の目標	【1段階】 - ふれあいの楽しさを実感する。（学びに向かう人間性等） 【2段階】 - ふれあいの楽しさや同意を得ることの大切さを実感する。（学びに向かう人間性等）	
時間	学習内容	配慮事項・備考
10:55	1. はじめの挨拶 2. 前回の学習内容の復習 - 前回の内容をスライド教材やイラストカードで思い出す。 「プライベートゾーンってどこだった？」などの発問を受け、プライベートゾーンの箇所や大切さを再確認する。 3. 本時の学習テーマを知る - 本時のテーマが「うれしいタッチ・いやなタッチ」であることを文字とイラストで確認する。 4. 学習の流れの確認	- 前回の内容をイラストカードで示しながら「覚えていますか？」と問いかける。 - 児童が答えられない場合は、具体的なヒントを出しながら思い出させる。 - ホワイトボードにテーマ板書を貼ってもらう。 - 活動の流れを視覚的に提示し、見通しを持たせる。
11:00	1. ふれあい遊びの説明を聞く - 始める前に大切なこと「同意」の説明を聞く。 - 指導者の「一緒に遊ぼう」と問われたら「いいよ」「ごめん」のいずれかで答える。 2. おしくらまんじゅうを行う 「いいよ」と回答した児童全員で、おしくらまんじゅうを行う。 3. 大根抜きを行う 「いいよ」と回答した児童全員で、大根抜きを行う。 4. 感想を共有する - 活動後、「どんな気持ちだった？」の問いかけを受けて、タブレットの感情アイコンで選択する。	- 参加に不安のある児童には、別の方法での参加を提案する。 - 遊ぶ前に『一緒に遊ぼう。』と聞くんだよ。ことをモデルで示す。 「○いいよ」「×ごめん」カードで答えることも可とする。 ◆評価方法 【1・2段階】 児童が積極的に遊びに参加し、笑顔や笑い声が見られるかなど、行動を通して評価
11:10	1. タッチサイコロの説明を聞く - サイコロの各面の説明を聞く。 『手をつなぐ』『肩に触れる』など 2. サイコロゲームのルール理解 「サイコロを振って、出たことをしていいか聞いてみよう」とルール説明を聞く。 3. 2人組でのロールプレイ実践 - 指導者と児童もしくは児童同士がペアになり、隣同士でロールプレイを行う。 ①「タッチサイコロ」をつかって出た面に書かれている言葉を相手に言ってみる。 ②「いいよ。」「ごめん。」と実際に声に出したり、ジェスチャーをしたりして行う。	◆評価方法 【2段階】 相手に同意を求める表現や「いいよ」「やめて」と適切に表現しようとしているかを評価 - 言葉に詰まる場合は、発声を促したり代弁したり支援する。 - 適切な距離感や声の大きさをアドバイスする。 - 良かった点、改善点をフィードバック
11:20	1. 「うれしいタッチ」「いやなタッチ」を知ろう 人と触れ合うとき、うれしいときといやなときがある？	

	2. 各場面での感情を考える ・タッチサイコロの場面を一つずつ確認し「これはうれしいタッチかな？いやなタッチかな？」について考え、感情カードを貼る。 3. 理由を考える ・それぞれの場面でなぜその感情カードを選んだのかを考える。(M.J) 4. 全体での確認と共有 ・みんなでワークシートを共有する。 5. 個人差の理解 ・「なぜそう感じるのか」を話す。(M.J) ・人によって感じ方が違うこと(個人差)を知る。	・児童が分類しやすいように、シナリオは視覚的な絵カードや分類カードを使用する。 ・迷った児童には追加説明を行いサポートする。 ・理由を考えるきっかけとなる発問を適宜行う。(M.J)
11:30	1. 学習内容の振り返り ・体を大切にすること ・人と触れ合うとき、うれしいときといやなときがあること ・相手の気持ちを聞くこと 2. 感想の共有 ・ふれあい遊びや「うれしいタッチ」「いやなタッチ」についての感想を話し合う。 ・「楽しかったこと、難しかったことはある？」の問いかけに答える。(M.J) 3. 次回の予告 ・『人との距離感「あいだ」』 4. 終わりの挨拶	・発言が難しい児童には、クローズドクエスチョンを行い、非言語表現(うなずき、手を挙げる)で感想を促す。
準備物	□前回使用したプライベートゾーンを示した人体図やスライド教材 □「○いいよ」「Xごめん」カード。 □タブレット(感情選択) □ワークシート(サイコロタッチゲームの各面と同様のイラスト) □感情カード(笑顔マーク、困り顔マーク)	

「生活科」学習指導略案

題材（単元）名	○人との距離感「あいだ」	
日時	令和6年11月26日（火） 10:55～11:45	
場所	5番教室	
児童名	Y.H M.J S.T U.K S.A A.T	
指導者名	○串田、○岩瀬、志藤、佐々木	
題材（単元）の目標	【1段階】 ・人との「あいだ」（距離や空間）を体験し、指導者と一緒に適切な距離をとる。（知識・技能） 【2段階】 ・適切な距離と不適切な距離を区別し、自分の感情を表現できる。（思考・判断・表現）	
時間	学習内容	配慮事項・備考
10:55	○はじめの挨拶をする ○前回の学習を思い出す - 自分と相手の体を大切にすること - 人と触れ合うとき、うれしいときといやなときがあること - 触れる前に相手の気持ちを聞くこと（同意を得る） ○本日の目標確認 <u>「あいだ」をしよう</u> - 絵カードやキーワードを使って、今日の目標を確認する。 - 本時で学習する4つの場面を知る。 1: <u>あいさつのしかた</u> 2: <u>すいどうまえのならびかた</u> 3: <u>ともだちのさそいかた</u> 4: <u>えほんをみせてもらうときのこえのかけた</u>	- 明るく分かりやすい言葉かけで全員の集中を引き出す。 - 前時のスライドや教材を使用し、振り返る。 - 今回のテーマに合うよう編集しておく。 - 本時の目標を児童の言葉で繰り返し、興味を引き出す。
11:00	○体験1: <u>あいさつのしかた</u> - 適切な距離で挨拶した場合と近すぎる場合を体験し、「うれしい」「いや」を考える。 - ワークシート：良い方に○カードを貼る。感情イラストを選び、貼る。 - 人形教材を相手に挨拶をする体験をする。	- 距離がわかりにくい児童にはフープなどを使って視覚的に示す。 - 記入が難しい児童には個別に補助を行い、適切なサポートを提供する。 《評価基準》以下、全ての体験活動で同様 ◆指導者と一緒に適切な距離間で体験している。（1段階） ◆人との適切な距離をとうろうとしたり、自分の感情を表現しようとしている。（2段階）
11:10	○体験2: <u>すいどうまえのならびかた</u> - すいどう前に並ぶ際の適切な距離と不適切な距離を体験する。 - ワークシート：良い方に○カードを貼る。感情イラストを選び、貼る。 - 必要に応じて、もう一度適切な距離で並ぶ体験をする。	水道の順番待ちの際に適切な距離を視覚的に示す（例：メジャーや足形、指導者の見本）。
11:20	○体験3: <u>ともだちのさそいかた</u> - 適切な距離と不適切な距離を体験し、「うれしい」「いや」を考える。 - ワークシート：良い方に○カードを貼る。感情イラストを選び、貼る。 - 人形教材を相手に挨拶をする体験をする。	児童の必要に応じて、コミュニケーションブック等を使用する。
11:30	○体験4: <u>えほんをみせてもらうときのこえのかけた</u> 声の大きさや距離の適切さを考え、適切な声かけを体験。	児童の必要に応じて、コミュニケーションブック等を使用する。

	2. ワークシート：良い方に○カードを貼る。感情イラストを選び、貼る。 3. 人形教材を相手に挨拶をする体験をする。	
11:40	○動画視聴「自分とほかの人との距離感が守られないときの対応方法」「いやなきもち」の視聴により、心と体の距離感について理解を深める。 ・人との距離感には、「体の距離感」と「心の距離感」のふたつがある。 ・親しくても、近すぎるといやだなと思うときは、すぐに離れてよいこと、友だちがさわられるのを嫌がったら、すぐにやめることが大切。 ・自分の気持ちや考え方は自分のものだから、どんな気持ちをもって、どんな考え方をするかは自分で決めていい。 ・人との距離感が守られないときは、「『いやだ!』『やめて!』『だめ!』とはっきり断る」、「そこから逃げる」「あんしんできる大人に伝える」 ○終わりの挨拶	・M.J 向けかも…だけど大事なことで、説明してまとめたいです。
準備物	□添付ファイルのワークシート（拡大版）：4つの場面ごとにホワイトボードに貼り出す。感情イラスト（「うれしい」「いや」）や良い方の行動に丸カードを貼る。 □表情イラスト：「うれしい」「いや」の感情を視覚的に示す。 □○カード □フープ・メジャー、足形など：距離感を視覚的に示し、体験をサポート。 □人形教材：すでに関係性のある実際の人間相手よりも、効果的にやり取りできる!?	

「くらし 学習名「昔の道具とくらし」指導略案

題材（単元）名	「身近な地域について知ろう」 昔の道具とくらし （社会 小3）	
日時	令和6年 月 日（ ） 5校時目 13:10～14:00	
場所	2組	
指導者名	○小倉(K生活3段階社会1段階理科1段階)、T2(W生活2段階3段階)、T3(O生活1段階2段階)	
題材（単元）の目標	① 昔の道具について知り、実際に体験して使い方を確認することができる。(知識・技能) ② 昔の道具について知り、現代の道具とマッチングすることができる。(思考力・判断力・表現力) ③ 主体的に活動に参加することができる。(学びに向かう力・人間性等)	
時間	学習内容	配慮事項
13:10	OP「はじまるよ」 1. はじめのあいさつ	・出席確認
	2. 本時の予定の確認 ①「秋」の復習 ②「日本について」復習 ③「ちょっとむかしのくらし」「むかしのどうぐ」 ④やってみよう ⑤まとめ	
13:15	3. 「秋」の復習 秋クイズ 虫 花 4. 「日本について」の復習 日本クイズ 地図 首都 国旗	・テレビに本時の予定を提示する。 ・復習のあと2択クイズを行う。 ・自分で選択して答えを出すまで待つ。
13:25	5. 「ちょっと昔のくらし」「むかしのどうぐ」 ○「今から80年ほど昔と今を比べてみよう。」 ・NHKforschoolの動画を見る。 昔の道具の動画を見せて、何に使う道具かを考える。 ①洗濯板 → 洗濯機 （動画） 洗濯に使う道具 ②かまど → ガスコンロ 料理するときに使う道具 （動画） ③黒電話 → プッシュ電話 スマートフォン 電話をかける道具 （動画） ④氷冷蔵庫 → 冷蔵庫 食べ物を冷やす道具	・「コノマチ☆リサーチ」「マチのむかしを知りたいぞ」クリップ3分 ・動画はNHKアーカイブスとYOUTUBEより
13:45	○「洗濯板で洗濯してみよう。」 ・順番を決める。 ・体験する。 ・手を洗う。	・一人ずつ前に出て体験する。 ・終わったら手をきれいに洗う。
13:55	・振り返り まとめプリント	
14:00	5. おわりのあいさつ	・昔の道具の横に現代の道具の画像を貼る。
準備物	テレビ、iPad、まとめワークシート、洗濯板	
評価	K 画像をよく見て、ワークシートに一人で道具を貼ることができた。 W 指導者の動きを見て、まねして洗濯板にタオルをこすりつけることができた。 O 時間いっぱい活動できた。自分の前になったら前に出てきて体験に参加できた。	

「くらし 学習名「昔の遊びをしよう」指導略案

題材（単元）名	「身近な地域について知ろう」 むかしのあそびをしよう（生活）	
日時	令和6年 月 日（ ） 5校時目 13：10～14：00	
場所	2組	
指導者名	○小倉(K生活3段階社会1段階理科1段階)、T2(W生活2段階3段階)、T3(O生活1段階2段階)	
題材（単元）の目標	①昔の遊びについて知り、どういう遊びかが分かる。(知識・技能) ②基本的な遊び方について、試しながら遊ぶことができる。(思考力・判断力・表現力) ③主体的に活動に参加することができる。(学びに向かう力・人間性等)	
時間	学習内容	配慮事項
13：10	OP「はじまるよ」 1. はじめのあいさつ	・出席確認
	2. 本時の予定の確認 ①「秋」の復習 ②「日本について」復習 ③「昔の道具」復習 ③昔の遊びをしてみよう。 ④まとめ	・テレビに本時の予定を提示する。
13：15	3. 「秋」の復習 ・秋クイズ 果物 植物 4. 「日本について」の復習 日本クイズ 地図 首都 国旗 5. 「昔の道具」の復習	・復習のあと2択クイズ ・自分で選択して答えを出すまで待つ。 ・生徒Kに質問し、何に使う道具か答えさせる。
13：25	6. 昔の遊びをしてみよう 「今から80年ほど前の子供たちは何をして遊んでいたでしょうか。」 説明 遊び方動画 体験 ①竹とんぼ ②お手玉 ③おはじき ④めんこ ⑤とんとんずもう	・テレビも携帯型ゲームもない時代であることを確認する。 ・①②③は自分の席で個人で行う。 ・④は一人ずつ前に出てきて行う。 ・⑤は自分の席で順番に行う。 ・動画はYOUTUBEから
13：50	・まとめワークシート ・目標の振り返り	・画像に遊びの名前を貼る。 ・楽しかった遊びに自分の顔写真を貼る。
14：00	5. おわりのあいさつ	
準備物	テレビ、iPad、昔の遊びの道具、ワークシート	
評価	K 「昔の道具復習」について昔の道具の画像を見て現代の道具の名前を言うことができた。 昔の遊び道具について、知っている遊びは自分で工夫して遊ぶことができた。 W 自分の順番の時に前に出てきて活動することができた。楽しかった遊びを選ぶことができた。 O 遊び装具に興味を持って手に取って遊ぶことができた。楽しかった遊びを選ぶことができた。	